

Meet in Mito

ミートインミト

～水戸で輝く人に会いにいく～

まちを形づくるのは、風景だけではなく、そこに暮らす人の力です。この連載では、市内で活躍する方の姿をとおして、地域の魅力と未来へのヒントを探ります。

問合せ▶みとの魅力発信課(☎232-9107)

06

太鼓の鼓動で皆に元気を

笠原音頭保存会 笠原水神太鼓代表

しづえ 与一 さん

沿道から届ける応援の鼓動

木々が色づき始める10月下旬に、全国から集まったランナーが水戸のまちを駆け抜ける「水戸黄門漫遊マラソン」。スタートの興奮が冷めやらぬ中、ランナーたちが最初に走り抜ける名所が、県庁を眺めながら走る笠原地区です。このコースの8 km地点で、力強い和太鼓の音色でランナーたちを迎え、これからの長い道のりに向けてエネルギーを送っているのが「笠原水神太鼓」の皆さんです。

「がんばってー」の言葉の代わりに、体に響く太鼓の音でランナーの背中を押し続けるメンバーの中に、平成13年の組織結成時から活動を牽引してきた与一さんの姿があります。



太鼓で奏でる敬意と応援

与江さんたちが漫遊マラソンの応援で打ち鳴らす太鼓には、実は350年以上の歴史への畏敬の念が込められています。

江戸時代の延宝5(1677)年、徳川光圀公は、飲料水に困っていた下町の人々のために上水道「笠原水道」を築きました。その水源地に祀られた「水戸神社」で、人々が豊かな水の恵みに感謝を捧げてきたのが「水神信仰」。与江さんたちは、この水神への尊敬の気持ちを込めて、笠原水神太鼓を組織しました。与江さんは語ります。「光圀公が人々のために水を引いてくれたように、私たちは太鼓の音で、人に元気を届けたい。笠原水神太鼓の演奏は、歴史への敬意と、人への応援の音なのです」。

その言葉どおり、漫遊マラソンでの応援は、第1回大会から始まり、第2回の大雨の際にも TENT を張って太鼓を叩き続けました。交通規制が始まってから最後のランナーが通り過ぎるまで、大人もこどもも手の豆が潰れるほど無我夢中で打ち鳴らしたと言います。

この8 km地点はランナーがUターンして戻ってくる場所です。Uターンの前に太鼓の音に



気づいたランナーが、戻ってきたときに、「がんばってください」と逆に声をかけてくれることもあり、このような交流がとても楽しいと与江さんは話します。

次の世代へバチをつなぐ

毎週土曜日の太鼓の練習には、親子で参加する方の姿もあります。中には、3世代で参加している方も。

「太鼓をとおして親子で同じ曲を演奏できるような頑張ることで、より親子の絆が深まっていますように思えます」と与江さんは話します。

与江さんは、小さなこどもたちに、バチの持ち方やまっすぐ振り下ろすことなどの基本を徹底して指導しています。太鼓の基本をしっかりと身につけたこどもたちの堂々とした演奏は、イベントの舞台でも際立ち、その姿が、イベントに訪れた人に感動を与えています。

光圀公の時代から続く水への感謝の継承。そして、地域とランナーへの愛。その想いを乗せた笠原水神太鼓の音色は、これからも人々の心を熱く結びつけていきます。



令和8年10月号
第1607号

【発行】水戸市 市役所
【発行日】令和8年10月1日
【編集】市長公室みとの魅力発信課

☎2029-224-1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1